

梨地農ビの効果確認試験

JAふらの

天間農産本舗



①ハイクリーンパールメイト(試験品)



②シャインアップ(慣行品)



③左:慣行品 右:試験品



④試験区内部



⑤試験品外観(近)



⑥慣行品外観(近)

試験目的

梨地農ビの効果確認

試験作物
及び品種

西瓜(マイティ21)

試験資材
及び数量(規格)

ハイクリーンパールメイト(0.1mm×800cm×87m)

慣行資材

シャインアップ

栽培方法

定植日

4月20日

収穫日

7月15日~20日

【栽植密度】

畝幅: 150cm

株間: 60cm

資材使用期間

慣行区 4月10日~7月末日
試験区 4月10日~7月末日

試験区面積

128坪

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

展張作業は通常のビニールと比較して試験品はさらさらしているため作業しやすく感じた。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

梨地の影響による品質の劣化、玉の肥大に問題はなかった。

(3)資材の強度・耐久性・崩壊性について

風の強いときや温度が高いときにも他のフィルムよりもバタつきが少なく感じた。

(4)促成・抑制効果について

遅い作型であったこともあり、生育が抑制されることはなかった。

(5)保温効果について

特段目に見えて生育に差が出たということはないため、保温効果は問題ないと感じた。

モニター感想

遮光になっているため、初期の温度確保が多少不安であったが、今回の試験では生育に影響がなく問題はなかった。そのため、遅い作型に適しているフィルムであると感じた。

今後は透明フィルムと梨地フィルムを作型に合わせて使用することも検討したいと感じた。

JA担当者の感想(南エリア生産資材課山部店 斉藤氏)

初期の温度確保が心配だったが、生産者が作型に合わせて試験を行い、問題ないという結果になった。

今年のような天候不順な年に使用し、問題なかったのは評価できるのではないかな。

これから先北海道も暑くなるため、暑さ対策の資材は必要になると思う。

今後は生産者の作型に合わせて同商品を提案していきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。

今年と同じ西瓜かメロンのハウスに次年度も継続して使用したいと思う。

将来希望する資材について

新規遮光ネットなど暑さ対策の資材

1 栽培フィルム

2 敷設フィルム

3 梨地フィルム

4 マルチ

5 不織布

6 育苗資材

7 防虫ネット

8 除菌資材

9 ICT機器

10 その他